

# ICCAE

**news**  
No.27 2015.6.1

名古屋大学 農学国際教育協力研究センター ニュース

平成27年6月1日発行 通巻27号(年2回発行)

発行/名古屋大学 農学国際教育協力研究センター  
〒464-8601 名古屋市千種区不老町

TEL 052-789-4225(受付) FAX 052-789-4222

<http://iccae.agr.nagoya-u.ac.jp/index.html>

e-mail:iccae@agr.nagoya-u.ac.jp

## ICCAE第15回オープンフォーラム/第3回JICA-JISNASフォーラムを開催

「第15回農国センターオープンフォーラム兼第3回JICA/JISNASフォーラム」が、3月16日(月)、東京駅近隣の八重洲通りハタビルにおいて開催され、研究者、学生、政府関係者、国際開発実務者など約60名が参加しました。

開発途上国における農業支援では、農産物の増産や高品質化等に向けた多くの研究・技術指導が行われてきました。しかし、販売に結びつかない農産物の生産は、農家の所得向上に至らないことから、研究・開発や技術指導の段階から市場を意識することが求められています。開発途上国の中でも、消費者の食のニーズが多様化しつつある国々では、生産者が市場ニーズの変化に対応する必要に迫られており、これまでの研究・技術協力の枠を超え、民間セクターの資金や技術を活用した国際協力へのニーズが高まっています。

2013年12月に共催された第2回JICA-JISNASフォーラムでは、「農業セクターにおける国際協力とマーケティングの重要性」をテーマとした議論が行われ、農業分野の支援においてマーケティングが不可欠な要素であり、今後は民間とODAとのデマケーションやコラボレーションのあり方、また農産物生

産の川上にある農産物の生産技術や開発に関与している研究者・大学教員を交えた議論の必要性が示されました。

この結果を受けて、本フォーラムは「開発途上国における農業生産・流通・消費を結ぶ国際協力を目指して— "売れる農産物" の生産に向けた研究・協力のあり方—」と題し、農産物の生産から消費までの流れの中で、研究・開発に携わる研究者、生産・普及に携わるJICA及び開発コンサルタント、そして流通・消費に携わる民間セクターのそれぞれから、現場の状況や課題について話題提供を受け、市場を視野に入れた研究・協力のあり方について議論し、課題の抽出を目指しました。

フォーラムでは、山内章ICCAEセンター長、榎本雅仁JICA上級審議役、佐藤兆昭文部科学省大臣官房国際課政策情報分析官による挨拶に続き、農産物の流通・消費に携わる渡辺能敬 イオン商品調達株式会社取締役、生産・普及に携わる杉山俊士 JICA国際協力専門員、農産物の研究・開発に携わる、吉村敦 九州大学教授の3名に現場の状況や課題についてご講演いただきました。

板垣 啓四郎 東京農業大学教授をモデレーターとして迎えた総合討論では、市場を視野に入れた研究・協力のあり方について議論しました。グローバル化に伴い、農産物の生産から消費までの流れが長く複雑になっていく中、普段は局所的に関与している様々な立場の人々が一堂に会したフォーラムでは、開発途上国の農業支援に向けて、流れ全体を踏まえた上で自らの役割を再認識する有意義な機会となりました。(伊藤香純)



板垣教授をモデレーターとした総合討論の様子